

宮本が歩いた

50年前の川間(五)

宮本常一が生涯に残した写真フィルムは、約9万5千枚といわれ、うち川間村で撮影されたと思われる写真が9枚あります。

その中でも、確実に撮影場所を特定できるものが6枚あります。

上の写真もそのひとつです。現在の「ちば県北農業協同組合川間支店」から国道16号へ向かい100メートルほど行った地点で、宮本自身が撮影したものです。

左に写っている家は、中里の片倉悦夫さん宅で、道路の



昭和31年に宮本常一が撮影した川間村の写真／写真提供=周防大島文化交流センター

真ん中には荷車を引く牛の姿も見られます。

片倉さんによれば、当時は堆肥を取ったり、荷車を引くために牛を飼う農家が多かったそうです。

道路の両側は一面麦畑ですが、当時は5月から6月にかけて、中里地区の畑は麦で覆われました。

片倉さん宅では、麦が終わると、白菜、続いて大根を栽培していたそうです。

写真の茅葺の母屋は、昭和19(1944)年に屋根の葺き替えを行いました。42

(1967)年に建て替えを行ったそうで、現在はありませんでした。

下の写真は、国道16号からまめバス停留所「野田病院入口」へ向かって150メートルほど行った田んぼ(現在は休耕地)を、川間小学校側から宮本自身が撮影したものです。

写真の中央に円形の池のようなものが見られますが、中里の小川浩さんによると、溜池をかねた「種子池」だそうです。湧き水が出ている所の周りを土盛りして円状にし、発芽を促進させるために水の中に「種もみ」を浸した場所で、写真は浸した上から、丸太で重しをしているところと

思われます。また、種子池が3つの田んぼに接していることから、三軒が共同で使っていたことも推測できます。

なお、種子池は臨時的なものでしたので、役目を終えると、元の田んぼに戻されたそうです。

※文中敬称略(次号へつづく)

【取材協力】鈴木一氏、岡田幸吉氏、横張英男氏

【参考資料】『日本民俗大辞典』(株)吉川弘文館

7月の休日当番医

休日当番医での診療時間

外科・産婦人科=9時~22時(ただし16時~19時は除く)

内科=9時~16時(19時~22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
6日(日)	野田中央病院(☎7122-6161)	尾崎台クリニック(☎7127-6677)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
13日(日)	東葛クリニック野田(☎7124-3101)	野田病院(☎7127-3200)	小張総合病院(☎7124-6666)
20日(日)	須藤整形外科(☎7122-1221)	山縣医院(☎7125-3741)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)
21日(月)	キッコーマン総合病院(☎7123-5911)	岡田小児科医院(☎7122-2519)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
27日(日)	梅郷整形外科クリニック(☎7125-2011)	東葛飾病院(☎7196-1166)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認してください。

急病センター

☎7125-1188

▼内科(小児科)=19時~22時(毎日)

▼歯科診療=9時~12時(休日)

現在の職場に異動して早3か月。市報の原稿を書いている、最も気を使っているのが言葉の「いい返し」です▼「先輩と後輩を誘う」と書くとき、自分が先輩と後輩の二人を誘ったとも、自分が先輩とともに後輩を誘った、とも受け取れます▼原稿を書く上で「皆さんに分かりやすい文章づくり」をいつも心がけているつもりです。しかし、言葉の言い回しも含め、受動態、能動態、敬語など、活字にするとなかなか難しく、辞書を脇に置きつつ、「先輩や後輩にご教示いただく」日々です(あ)

編集後記

市の木



けやき

市の花



つつじ

市の鳥



ひばり